

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	多摩区第2グループ(錦ヶ丘・三田)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 錦ヶ丘こども文化センター	H29	H30	H29	H30
	①年間延べ利用者数	21,616人	19,538人	②年間延べ利用団体数	309団体 301団体
	2 南生田小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	31,250人 34,829人
	①登録者数	476人	494人	②年間延べ利用者数	14,076人 13,854人
収支実績	1 収入	単位:円			
	指定管理料		97,174,389		
	2 支出				
	人件費		87,892,233		
管理費		5,917,988			
事務経費		4,272,563			
その他経費		5,057,635			
合計		103,140,419			
3 差引		-5,966,030			
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・多摩第2グループ合同行事として、老人いこい家との連携事業を、新たに三田こども文化センターを加えて実施し、ダンスを披露するなど多くの高齢者の方々と交流を深めた。 ・錦ヶ丘こども文化センターでは、運営協議会と生田支部子ども会の共催事業として、町内会や子ども会やジュニアリーダーの地元と連携、協力を図り振り返りを実施した。広報をセンターだよりのほか、町内会や子ども会広報紙などにも協力を得て行ったことで、多くの参加者があった。 ・三田こども文化センターでは、中学生の利用については、部活動で忙しいという理由から利用が少ないため、こども文化センターについて知ってもらえるよう、生田中学校の調整を行い、演劇部の活動の場として利用してもらうこととし、演劇部の発声のよさを伝えるため、幼児向けに読み聞かせを行い、単に中学生の利用促進だけではなく、異世代の交流の場にもなった。 				
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・三田小学校わくわくプラザでは、子ども運営会議やご意見BOXに寄せられた意見を「わいわいタイム」や「わくドキタイム」等の内容に反映しており、運営・業務の改善に繋げている。 ・特別な配慮を要する児童への対応については、巡回指導員や学校の担任の意見を聞きながら、児童への接し方を検討して、それをスタッフ間で共有して対応にあたるなどの工夫を行い、児童の処遇向上が図られた。 ・三田こども文化センターでは、近隣に大学が複数あるという地域特性を利用して、明治大学や専修大学と連携して事業を実施しており、明治大学ボランティアサークルと連携し、「みたっこバトロール隊」を、また専修大学のボランティアサークルと連携し、「子ども安全教室」を実施して、大学生と一緒に子どもたちの安全について考える機会となった。さらに、新たな取組として、専修大学の教授の指導を受けた8人の学生を招き、避難所で使われる段ボールを利用して子どもと一緒に折り曲げて箱を作り、楽しみながら防災の知識を学ぶ「段ボールで作ろう」を開催するなど、地域の特性に合わせた協働の取組が行われている。 ・施設・事業の広報について、「中学生・高校生たより」を年2回発行するとともに、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて広報を行っている。また、利用者に行事への参加を呼び掛けている。 ・運営協議会の実施については、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会については、今年度から土曜日に学校の行事と合わせて実施するとともに親子で行う「親子工作」などのプログラムを行うなどの工夫を行って実施した結果、保護者に子どもたちのわくわくプラザでの過ごしている様子を伝えられたとともに、昨年度と比較し、参加者の増加に繋がった。 				

組織管理 体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。さらに、多摩区内合同研修として「リフレッシュ研修」を実施し、児童の行動などを、異なる視点(フレーム)から見直して、一見否定的な事象も肯定的に捉えることができるということを学んだことにより、児童に自己肯定感を抱かせるような声掛け等ができるようになり、職員の資質向上が図られている。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務 実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 利用者の安全確保については、同じ事故が繰り返し起こらないよう、館長会議等を通じて情報を共有し、事例検討を行う等、職員の資質向上を図っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、日頃の予防や非常時の対応の強化に取り組んでいる。三田子ども文化センターでは、度重なる通学中の事件・事故を踏まえ、明治大学と専修大学と一緒に、防犯・防災について楽しく学べる工夫を行いながら安全マップの更新を行うなど連携が図られている。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
		「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。			
	効率的・効果的な支出	効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。	5	3	3
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループの子ども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

特に、新規事業として「段ボールで作ろう」、「生田中学校演劇部による読み聞かせ」、「ヤクルト出前事業」等、特色あるイベントを企画・実行して、異年齢交流や多世代交流を推進した。また、各種研修に参加し、職員の資質向上に努め、良質なサービスを提供している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より効果的な広報を行うために、対象年齢を捉えた広報について工夫をこらすなど、さらなる積極的な取組が望まれる。